



日時 2023年**2月25**日(土) 9:30~12:00

場所 石川県文教会館 4F (石川県金沢市尾山町10-5)
オンライン同時配信(Zoom)

**参加
自由**

**参加
無料**

事前申し込みフォームはこちらから <https://ws.formzu.net/dist/S50111371/>



ISHIKAWA FUTURE CONFERENCE

石川未来会議

未来テーマ「2050年における石川県の、人口100万人。」
に対する、学生の、学生による、学生のための諮問会議。

Advisory council for the future theme "Keep 1 million in 2050" of the student, by the student, for the student.

ゲスト(五十音順)



小森たくお氏

石川県1区衆議院議員
石川県総務部長・企画振興部長を歴任、北陸新幹線金沢開業準備、IRいしかわ鉄道設立、地域活性化、県財政等、県政の要に携わる。大学コンソーシアム石川の担当も。28年勤めた財務省を退官し、令和3年10月、第49回衆議院議員総選挙で初当選、リアル即戦力



佐々木はじめ氏

石川県2区衆議院議員、当選4回
能美市出身。衆議院経済産業委員会、東日本大震災復興特別委員会、原子力問題調査特別委員会に所属、党青年局次長、党経済産業部会副会長を務める。強い国づくりに一直線



永井みきこ氏

金沢市出身。前職の国連大学IAS いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット事務局長時代には多くの県内自治体とSDGsの実践として様々な事業を展開。現在は、SDGsの実践に多様な資金と関係者を巻き込むためのコミュニティ財団「ほくりくみらい基金」の設立に奔走中。

**2023
年度**

**プロジェクト
メンバー
大募集!**

大学・高専、学年の垣根を取り払い、新たな出会いと新たな価値観、就職活動に華そえる石川未来プロジェクトに参加しませんか?
詳しくは裏面大学コンソーシアム石川事務局まで。

■主催



公益社団法人
大学コンソーシアム石川

■後援 石川県

このイベントは、大学コンソーシアム石川が実施する地域連携事業『石川未来プロジェクト』の企画です。未来テーマ『2050年における石川県の、人口100万人。』に結集した学生17名3チームによる提言とディスカッションを行います。ぜひ、学生が集うプロジェクト型授業の成果をご視聴ください。

Program

9:30 **開会** (大学コンソーシアム石川 地域連携専門部会 部会長 榎本 俊樹)

9:35 **取り組み紹介** (石川県土木部建築住宅課長 渡邊 学)

『いしかわの住宅政策』

石川県住生活基本計画の概要と住宅政策の取組を紹介します。

10:10 **提言とディスカッション** (進行: 石川工業高等専門学校 建築学科 道地 慶子)

2022年度石川未来プロジェクトに参加した3チームによる『未来テーマ』に対する答申を、石川県を代表するオーソリティに提言し、オーソリティと学生が活発なディスカッションを行います。

チームA : FUTABA : 石川ファンカード

チームB : Machiya :

学生が研究・教育機関間の垣根を越えて専門性を発揮し地域への愛着を深める町家プロジェクト
—20代の転出超過に歯止めをかけることを目指して—

チームC : PRODUCE CONTACT : 新しい何かを生み出す 人を繋げる

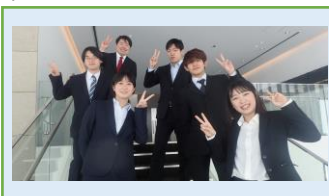
総括

3チームとのディスカッションを通してのご示唆をオーソリティ、および来場者様から一言いただきます。

11:50 **閉会** (大学コンソーシアム石川 地域連携専門部会 副部会長 伊丸岡 俊秀)

2022年度 石川未来プロジェクト チーム紹介

チームA FUTABA



チームA (FUTABA) は、「子供を含む若者世代の増加」というアプローチで活動を行いました。活動では、現在問題となっている「若者世代の減少」、また「若者世代の都内進出」に着目し、SDGsの開発目標の1つである「住み続けられるまちづくりを」も同時に達成できるような家の創出を意識し、チーム全員で活動に取り組みました。最終的に提案したアイデアは、「石川ファンカード」を通じた人的・金銭的・情報ネットワークを構築し、石川県内への就職支援や定住を視野に入れた各種イベントの提供に加えて、全国の石川ファンとのコミュニティを築くものです。このアイデアは、「カードが人を繋ぎ生活の質を向上させる」をコンセプトに、県内在住者のみならず全国の石川ファンにもサービスを提供することで、県内定住者や関係人口の増加に資するものです。

チームB Machiya



チームB (Machiya) は、「学生が研究・教育機関間の垣根を越え、専門性を活かしつつ、地域住民・観光客と継続的に交流を深められる町家プロジェクト」をテーマとしてプロジェクトを実施しました。5月から7月にかけて、ブレインストーミングおよび先行事例の調査を行い、チームの方向性を決定しました。10月と11月には京都と金沢でフィールドワークとインタビューを実施し、大学における町家の活用事例および大学と商店街のコラボレーションについて学びました。これらの活動の成果として、「石川県の特徴ある文化遺産としての町家を活動拠点として、学生と地域住民の交流を活性化し、その活動を通じて若い世代の石川県への定着を図る」ことを提言しました。

チームC PRODUCE CONTACT



Cチーム「produce contact」は、「人口、100万人。」—2050年における石川県の人口—に向けて、SDGsを踏まえた議論から「人とつながり合う社会へ」をチームテーマに掲げました。進学時の県内転入超過と就職時の転出超過の事実からジョブカフェ石川と共催し、「活躍されている社会人と学生が就活前に繋がる☆石川での仕事の魅力イベント」を企画・運営をしました。学生と企業、異なる教育機関の学生同士が繋がり合う機会をプロデュースしました。